

東と弁往來

第26回 法テラス須崎法律事務所



左から、筆者、法テラス須崎の高林弁護士



会員 宮地 洋平 (61期)

2008年12月弁護士登録。東京弁護士会に入会。2010年1月、法テラス須崎法律事務所に着任し、同事務所にて常勤弁護士として勤務。任期終了により、2013年2月に東京弁護士会に登録換。

1. 町の紹介

私は、2010年1月に法テラス須崎に赴任しました。高知地方裁判所須崎支部管内では、須崎ひまわり基金法律事務所の弁護士1名と法テラス須崎法律事務所の弁護士2名が活動しています。

須崎市は、高知市から西へ車で50分ほど走ったところにある人口約2万4000人の街です。海に面したこの街はかつて漁師町として栄えたそうですが、今は人口の減少と高齢化が進み、経済的にも長く低迷した状況が続いています。管内には須崎市の他にも7つの市町村がありますが、いずれも同じような状況であり、どの街もシャッターが閉まっている店が目立ち、日中に若者の姿を見かけることはあまりありません。

とは言え、東西に長く広がる高知県の街のことで、すから、緑の豊かな山々と青い太平洋を望める景観は開放的です。それゆえでしょうか、高知の人はラテン気質で性格が明るく、特に女性は、「ハチキン」という特別な言葉で表現されることがあるほど、気も

お酒も強い人が多いです。さらに、すぐ皆でお酒を飲むという文化も手伝ってか、管内の人々からは、経済が低迷しているほどの寂しい印象を受けません。須崎市が長年マスコットキャラクターとして押してきたニホンカワウソが昨年に絶滅種に指定されたことは残念でしたが、現在は、「鍋焼きラーメン」が目下売出し中で、本号が出るころには、新横浜のラーメン博物館にも出店している予定です。まだまだこの街を盛り返す気概を住民の方たちは持っています。

2. 活動の紹介

地域を支えることが本来期待される層が少ないこの管内においては、地域住民の生活に行政や福祉関係者による支えが欠かせません。そして、地域社会の助けを必要としている方たちは、例えば、高齢であって医療的援助が必要であるのと同時に、資力がなくて経済的援助も必要としているとか、障がいがあって保健・福祉の援助を必要としているのと同時に、地域や親族とのトラブル解決のために法的援助

も必要であるといったように、重層的に問題を抱えていることが多いです。そこで、各自治体の社会福祉協議会や地域包括支援センター、要保護児童対策地域協議会、民生委員・児童委員といった地域社会を支える関係機関の方たちは、専門を異にする関係者を集めたネットワークを形成し、それぞれの立場を生かすことで当事者の抱える各種の問題を解決しようと活動しています。

私自身も赴任以来、高齢者虐待防止ネットワーク委員会や自殺予防関係機関連絡会議等のメンバーとなったり、個別事案ごとのケース会議に参加したりすることで、徐々に地域の輪に組み込んでもらいました。

その結果、ケースの対象者が法的問題を抱えている場合には、すぐに地域の関係者から繋いでもらえるようになりました。同時に、私も、刑事被告人に社会復帰後の地域社会の受け皿を用意してもらうとあるとか、未成年後見人や付添人を務める少年の身上監護を地域社会に協力してもらうといったように、自分の事件を地域の関係者に助けてもらうことができるようになっていきました。

地域社会によるネットワーク作りの集大成の一つが、昨年12月に開催された「日本子ども虐待防止学会高知りょうま大会」でした。高知県の行政、医療、教育、福祉、保健、司法等、子どもの虐待防止にか

かわる各分野の方たちが協力し合い、私も準備作業に携わらせていただきました。大会には、2300名を超える全国の関係者に参加いただき、従来、各市町村の中でのつながりにとどまっていたネットワークが、県や四国、さらには全国の関係者とのつながりを広げる良い機会になったと思います。

3. 今後について

法テラスの任期満了に伴い、本年2月から東京弁護士会に戻り、東京パブリック法律事務所でお世話になります。

須崎では、成年後見人のなり手不足といった地域の司法が抱える問題に具体的な解決の道筋をつけることができているなど、やり残したこともたくさんありますし、地域社会の方々と顔が見える関係ができてきたところでしたので、ここから去るのは残念です。しかし、この地を離れる以上は、須崎に来て教わった、困っている人を街のみんなで支えるという当たり前のようで実際にはなかなか難しいことを他の地域に広げていくことが、こちらの方々への恩返しと考えています。

私が須崎に来て見せてもらったのは、情報化社会や人口偏在によって取り残された過疎地の悲壮感ではなくて、むしろ縮小する社会の規模を強みに行政と関係機関と住民とが顔が見える関係を大事にして、地域の誰かが零れ落ちないように助け合う、暖かい社会の姿でした。

よく一緒に仕事をさせてもらった隣の寺のご住職は、「地域社会のつながりで皆が安心できる社会を作るためにやるべきことは、田舎も都会も一緒だ。」と言っていました。私もそうだと思います。もっとも東京のように規模の大きな地域社会においては必要な努力も多いのであろうと想像しています。それを弁護士という立場で頑張りたいと思います。



法テラス須崎のスタッフらと